



Title	「旅泊」その他 : 外国曲からの唱歌四曲
Author(s)	櫻井, 雅人
Citation	一橋論叢, 134(3): 319-333
Issue Date	2005-09-01
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://doi.org/10.15057/15553
Right	

「旅泊」その他—外国曲からの唱歌四曲

櫻井雅人

明治期の唱歌には西洋の曲に新たな歌詞を付けたものが多い。しかし、曲や出典についての情報が十分には伝えられていなかったために、いまだに原曲不詳の歌が数多く存在する。『小学唱歌集』⁽¹⁾についてはひととおりの検討をしたが、次の四曲もこれまで原曲が報告されていないと思われるので、ここで紹介する。

「旅泊」

大和田建樹の作詞（当時は「作歌」と言った）による歌で、初出は大和田建樹・奥好義編『明治唱歌第三集』（一八八九）⁽²⁾である。原曲題名・出典等はまったく付されていない。後に佐々木信綱作詞「助船」⁽³⁾、さらに勝承夫作詞「灯台守」として別の歌詞で親しまれてきた曲で、堀内・

井上編『日本唱歌集』⁽⁴⁾をはじめとして一般には「イギリス曲」と伝えられ、「イギリス民謡」⁽⁵⁾とされることもある。民謡の場合にはイングランド曲とかスコットランド曲などのように地域が特定されるはずであるので、「イギリス民謡」というのは相当にあいまいな表現である。「イギリス曲」という情報だけが伝承されていて、その典拠は不明であるし、原曲の題名や歌詞等が紹介されたことはないだろう。なお、旋律は民謡的というよりは賛美歌調であるが、アメリカの「天なる神には」⁽⁶⁾『讚美歌』百十四番）は「ほぼ同曲」ではなくて、まったく違う曲である。

原曲は“The Golden Rule”として一八八一年出版の『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第一集』⁽⁷⁾にある（楽譜1参照）。調性（変ロ長調）もまったく

楽譜 1

FRANKLIN SQUARE SONG COLLECTION.

9

NEAR THE LAKE.

Geo. F. Moazza.

1. Near the lake where droop'd the willow, Long time a - go! Where the rock threw
 2. Rock, and tree, and flow - ing water, Long time a - go! Bird, and bee, and
 3. Min-gled were our hearts for-ev-er, Long time a - go! Can I now for -

back the billow, Bright-er than snow! Dwelt a maid be - loved and cherished
 blos - som taught her Love's spell to know. While to my fond words she lis-tened,
 get her? nev-er! No, lost one, no! To her grave these tears are giv - en,

By high and low: But with autumn's leaf she perished, Long time a - go!
 Mur - mur-ing low, Ten - der-ly her dove-eyes glistened, Long time a - go!
 Ev - er to flow! She's the star I missed from heaven, Long time a - go!

THE GOLDEN RULE.

The gold - en rule, the gold - en rule, Oh, that's the law for me; Were this the law for
 Were this the rule, in har - mo - ny Our lives would pass a - way; And none would suf - fer,

all the world, How hap - py we should be. *Chc.* The gold - en rule, the gold - en rule,
 none be poor, And none their trust be - tray. The gold - en rule, the gold - en rule,

Oh, that's the law for me; To do to oth - ers as I would That they should do to me.

(3) 「旅泊」その他—外国曲からの唱歌四曲

同じ(ただ)、“The Golden Rule”は四部合唱)であつて、これが出典であることは確実であろう。歌詞一番は“[The golden rule, the golden rule./ Oh, that's the law for me; / Were this the law for all the world./ How happy we should be./ (Cho.) The golden rule, the golden rule./ Oh, that's the law for me; / To do to others as I would/ That they should do to me.”という歌であり、作詞者・作曲者ともに不明、目次(二三頁)には“School Song”と書かれている。『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション』はオリジナルな作品の歌集ではないので、どこか他から転載されたものと推測される。ついでながら、『小学唱歌集』の第七〇「船子 (Row Your Boat)」および第七八「菊(庭の千草)」は『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第一集』から、第七九「忠臣 (Juanita)」もおそらくは同コレクション『第二集』から、「夢の外 (When We Arrive at Home)」(『明治唱歌第五集』所収で「真白き富士の根」の元歌)は『第五集』(一八八八)から採られていることを付け加えておく。

しかし、“The Golden Rule”と題する唱歌は他にいく

つかあるもの⁽⁹⁾、いまのところ同じ歌が見つからず、調査は行き止まりである。賛美歌調ではあっても、テンパリーおよびワッソンの『賛美歌曲目索引』⁽¹⁰⁾にこの歌いだしの旋律 (incipit) による賛美歌はない。英米の主要な歌謡索引にもこの“[The Golden Rule”は見当たらないので、これ以降歌い継がれてこなかったものと思われる。イギリスとアメリカの歌謡民謡研究者にも問い合わせたが、“[The Rose of Allandale [Allandale]”と似たところがあるという回答しか得られなかった。少なくとも現在の英米ではまったく知られていない曲で、⁽¹²⁾「イギリス曲」であるという確証はえられなかった。

「織り成す錦」

『中等唱歌集』(一八八九)に収録の歌で、堀内・井上編『日本唱歌集』⁽¹³⁾には「原曲は外国曲だが出所不明」との注がある。金田一・安西編『日本の唱歌(上)』⁽¹⁴⁾では「イギリスあたりの民謡に作詞したものであろうか」との推測をしている。

原曲はアメリカのミンストレル・ソングで、一八四七年に“Rosa Lee, or, Don't Be Foolish Joe”とつづニャー

楽譜 2

ROSA LEE, OR "DON'T BE FOOLISH JOE."

67

Allegretto.

p *ef* *f*

SOLO, TENOR.

1. When I lib'd in Ten - nes - se,
2. I said you lib - ly Gal, dat's plain,
3. My sto - ry yet is to be told,
4. Dey give her up, no pow'r could save,

p *cres.* *f*

TENOR.

U - li - a - li o - la - e, went court - in Ro - sa Lee,

U - li - a - li o - la - e, Bred as sweet as su - gar cane,

U - li - a - li o - la - e, Bo - ss catch'd a shock - ing cold,

U - li - a - li o - la - e, She ax me fol - low to - her grave,

ALTO.

U - li - a - li o - la - e,

SOPRANO.

U - li - a - li o - la - e,

BASSO.

U - li - a - li o - la - e,

ヨークのファース・アンド・ホール社 (Firth and Hall) から出版された。表紙に “The only correct & authorized edition. Music of the Ethiopian Serenaders” と書かれた十八曲を収めたソングブックの中の一曲 (三十七頁、ピアノ伴奏付きでテナーのソロと合唱) であり、作詞者・作曲者ともに不明である。同じ年にニューヨークのウィリアム・ホール・アンド・サン社 (William Hall & Son) からもシートミュージックが出版されている (どちらが先かは不明)。テネシーに住んでいたときに、ローザ・リーに求婚するが、答えはいつも「馬鹿なことをいわないでよ、ジョー」であった、というもので、擬似黒人なまりの歌詞で書かれている。十九世紀中にはかなり流行して、いくつかのシートミュージック版が出ているし、ピアノ変奏曲・ポルカ・クイックステップなど器楽曲としての編曲もある⁽¹⁵⁾。歌集では『シンストレル・ソングー今昔』⁽¹⁶⁾ (楽譜2参照) および『ハート・ソングズ』に収録されている。イギリスではブロードサイドが出版されて、替え歌 (“Betsy Lee”, 1851⁽¹⁸⁾、歌詞は “When I lived in at Battersea...”) も作られ、オーストラリアでもシートミュージックが出版された⁽¹⁹⁾。元歌はホ長調で四分の二拍子の快活な曲であるが、「織り

成す錦」では、四分の四拍子でト長調に移し、シンコーペーションをなくしたりするなどリズムを一部簡約化し、合唱部分を単旋律に変え、終わりから二小節目の旋律を変えて最高音を三度下げている。この変更は、以上のアメリカ版には見られないので、日本で行われたものかもしれない。

「初花 (はつはな)」

これも『明治唱歌第三集』(一八八九、一四—一五頁) に収録の歌である。一番は「朝露うるおう初花の いろいろを自然の乳児 (ちご) の顔 さいわいまもれよ天津 (あまつ) 神 未来のひかりは目のうちに」で、歌詞は二番まである。『唱歌索引 (明治編)』⁽²⁰⁾ によれば収録唱歌集は他に一点があるので、岩波文庫や講談社文庫の唱歌集には載っていないが、筆者には聞き覚えのある旋律である。

ワッソンの『賛美歌曲目索引』で、「冒頭の旋律 (DDTR-LLD) つまりドドシドレドラド) から検索すると次の項目がある。

17878 Long Time Ago (1854)

DDTRDLD, SMRDR, FMRDDLD,

Source: *Southern Harmony, The, 1854*; Ed. William Walker

Hymnals: IU-313

IU-313とはシェイプ・ノート賛美歌集の『サザン・ハーモニー』三十三番である。歌詞一番は「Jesus died on Calvary's mountain./ Long time ago./ And salvation's rolling fountain./ Now freely flows」と始まりつて全語が七連の歌詞が付いている賛美歌で、主旋律(シェイプ・ノート)の特徴として、ソプラノではなくてテノールに置かれている(はリズムに少し相違があるし、連のまとめ方(二連を、一連と繰り返し)も違っているが、「初花」とほぼ同じ曲である。ワッソンに収録賛美歌集はこれ一点しか挙げられていないし、これ以上の情報(出典・原曲・作者など)は得られない。出版年代(一八五四)からすると「初花」の出典とみなすことが可能かもしれないが、このシェイプ・ノート賛美歌集が当時の日本に入ってきて大和田建樹が直接そこから採用したとは考えられない。

一方、筆者が聞いたことがあるのはアロン・コープランド(Aaron Copland)が編曲した「Long Time Ago」

『*Old American Songs* (set 1) (一九五〇)』の中の一曲である。ブリリン・ホーンのCDアルバムに含まれていて、これには日本語もある。(22)「初花」よりは装飾的な旋律で、歌詞は以下のとおりである。

LONG TIME AGO

On the lake where droop'd the willow
Long time ago,
Where the rock threw back the billow
Brighter than snow,
Dwelt a maid beloved and cherish'd
By high and low,
But with autumn leaf she perish'd
Long time ago.
Rock and tree and flowing water,
Long time ago,
Bird and bee and blossom taught her
Love's spell to know.

(7) 「旅泊」その他—外国曲からの唱歌四曲

While to my fond words she listen'd
Murmuring low,
Tenderly her blue eyes glisten'd
Long time ago.

コープランド版の原曲をたどってみた。『イーノック・ブラッター・フリー図書館歌謡索引』にみるよ⁽²³⁾“(A) Long Time Ago”とごうタイトルでは八曲あるが、それが該当するのかわからな⁽²³⁾。ゆゑに⁽²³⁾“On the Lake Where Drooped the Willow”とごう歌⁽²³⁾と⁽²³⁾の歌集 (Frank Luther, *Americans And Their Songs*, 1942) にみるよ⁽²³⁾。フーガン編『歌謡索引』の“Long Time Ago”のとごう⁽²³⁾も⁽²³⁾ *The Southern Harmony*; Aaron Copland の曲集; *Americans And Their Songs* などの収録歌集が記載されて⁽²³⁾る。しかし⁽²³⁾『サザン・ハーモニー』以外に十九世紀の歌集がな⁽²³⁾。マッファヘルズ『ヴァラエティー・ミュージカル・キャヴァルケイド』⁽²⁴⁾およびラックスとスミス⁽²⁴⁾の『歌謡シンソーラス』⁽²⁴⁾には一八三三年の“Long Time Ago, or Shinbone Alley”しか挙げられて⁽²⁴⁾ない。このシンストレル・ソングのほうはデイモン編『古くアメ

リカの歌謡シリーズ⁽²⁵⁾』にファクシミリ版があり、関連曲と見受けられるが、違いが大きくて「初花」やコープランドの典拠ではない。背景的情報としては、シクマンド・スベイスの『アメリカのポピュラー音楽の歴史』⁽²⁶⁾にこれらの歌が言及されている。

一八五八年のもう一つのヒット曲に、ジョージ・ボーク・モリス (George Polk Morris) と C・E・ホーン (C.E. Horn) の “On (or Near) the Lake Where Drooped the Willow” があり、音楽はより軽くより繊細であるが、同じようなシンコペーションがある。これは人々の愛唱歌として二〇年以上も生命を保った。音楽的に直接の先祖は一八三三年に作られた黒人の「遠く昔 (Long Time Ago)」であり、⁽²⁷⁾「ダディー・ライス (Daddy Rice) が歌った。この歌は「シンボーン横町 (Shinbone Alley)」とごう題名でも呼ばれていて、W・クリフトン (W. Clifton) の作である。

大いに流行したのは一八五八年かもしれないが、作られたのはもっと早い。リーヴィー・シートミュージック・コレ

クシヨンは一八三七年版 (“On the Lake..”) と一八三九年版 (“Near the Lake..”) とが収められている。これらの二点のタイトル(冒頭の前置詞)は違っても、編曲は同一で、以下が書誌データである。歌詞にはわがたのうた一種 (“Mingled were our hearts forever”) もの、一節ご拍撃がある。なお、『インスタンツ歌謡集』⁽²⁵⁾にも “Near the Lake Where Drooped the Willow” が含まれているが、おそらくこれはイングラント起源の歌ではない。

Title: On the lake Where Droop'd the Willow. A Southern Refrain.

Composer, Lyricist, Arranger: The Symphonies composed, Adapted and Arranged by Charles E. Horn.

Publication: New York: James L. Hewitt & Co., 239 Broadway, 1837.

Title: Near the Lake Where Drooped the Willow.

A Southern Refrain. Third Edition.

Composer, Lyricist, Arranger: The Poetry By

Geo. P. Morris, Esq. The Symphonies Composed, Adapted & Arranged by Charles E. Horn. NB this Air forms No.1 of a Series of National Melodies. Publication: New York: Firth, Pond & Co., No.1 Franklin Square, 1839.

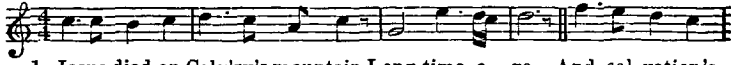
出版年と流行年とは「時差」があったようである。デイモン編『古くアメリカの歌謡シリーズ』⁽²⁶⁾にも一八三七年版 (“On the Lake Where Drooped the Willow”, sung by Miss Horton, arranged by Chas. E. Horn) が収録されている。解説によると、ジャーナリストのモリスが編集をしてつけた『ミラー (Mirror)』紙(一八三七年八月一九日号)に初めは “On the Lake..” として無署名で歌詞が載ったが、のちに “Near the Lake..” に変更された、と云う。これがコープランド版の出典であろう。しかし、「初花」の旋律のほうには、簡素化されているし、これらのシートミュージックから採用したとは思われない。

「初花」の旋律は日本で簡略化されたのではなく、別のアメリカ版から由来する。『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第一集』の “The Golden Rule” と

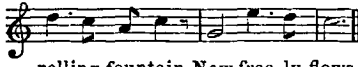
楽譜 3

102

Long Time Ago.



1. Jesus died on Calv'ry's mountain Long time a - go, And sal-va-tion's



rolling fountain Now free-ly flows.

2 Once his voice in tones of pity
Melted in woe,
And he wept o'er Judah's city
Long time ago.

3 On his head the dews of midnight
Fell long ago.

Now a crown of dazzling sunlight
Sits on his brow.

4 Jesus died, yet lives forever,
No more to die,
Bleeding Jesus, blessed Saviour,
Now reigns on high!

5 Now in heaven he's interceding
For dying men,
Soon he'll finish all his pleading
And come again.

59

同じページ(楽譜1参照)に掲載されている“Near the Lake”は、一箇所リズムに違いがあるものの、調性・拍子・旋律(装飾音を省略して簡素化していることも)は同じで、これが「初花」の典故であることは疑いない。(29)同じ四部合唱簡素化版が一八八一年出版のジョンソン編『私たちの愛唱歌と作者たち』(30)にも載っている。どちらかが借用したのか、あるいは共通の典故がどこか他にあるのだろうか。歌詞はコープランド版と若干相違がある。主旋律そのものは、『ザサン・ハーモニー』版と同じであり、一八七二年の賛美歌集『ザ・リヴァイヴァリスト』(31)にも転載されている(楽譜3参照)。曲のほうは賛美歌版から採用されたのかもしれない。なお、ジョンソンは、曲は「南部の黒人曲(negro melody)」から来ていると言いつ、デュボイスも黒人歌謡起源とみなしていたが、誤りであろう。もう一方、ジョージ・パリン・ジャクソンはウェールズ民謡の“All Through the Night”(『ザサン・ハーモニー』ではWELSH(ワラッシュ)曲名)に起源を求めるが、(32)この説は強引な憶測である。シー・シャントリーにも“A Long Time Ago”(34)がある。遠い関連はあるかもしれないが、旋律・歌詞に共通点は少ない。

「浦のあけくれ」

『中等音楽教科書(四)』(一九一〇)に掲載されたマツインギ作曲・吉丸一昌作詞の歌で、現在でも歌われているが、原曲の題名・歌詞などは伝えられていない。⁽³⁵⁾ 曲そのものはそれよりも前に『中等教育唱歌集』(一九〇七、一九〇八)⁽³⁷⁾ において勝間霞舟作詞「春興」として紹介されている。「春興」の歌詞は「八重霞、たなびきて、花は四方(たも)に匂い、風をえかおる、まゝ、鳥の声もゆかし…」⁽³⁶⁾ である。『Composed by J. Mozzighi [sic]』と書かれていた⁽³⁸⁾ (原曲名はなら)。ソロ(斉唱)と三部合唱の掛け合いで、通作歌曲の形をとっており(ソロ部分は一番、二番、三番で旋律に違いがある)、ピアノ伴奏が付なれてゐる。原曲はジョーゼフ・マズィンギ (Joseph Mazzinghi、イギリス、一七六五—一八四四) 作曲の“The Wreath (Ye Shepherds Tell Me)” (作曲年代不明) である。歌詞一番は以下のとおりで、「春興」および「浦のあけくれ」の楽譜はこれとほぼ同じである。⁽³⁹⁾

The Wreath (Admired Glee)

Ye Shepherds tell me, tell me have you seen,
have you seen,
My Flora pass this way.
In shape and feature beauty's Queen,
In pastoral, in pastoral array.

(Chorus)

Shepherds, tell me, tell me have you seen, have
you seen,
My Flora pass this way, have you seen, tell me,
Shepherds have you seen, tell me have you seen,
My Flora pass this way?

“Ye Shepherds, Tell Me” という題でアメリカ版やオーストラリア版のシートミュージックもある。⁽⁴⁰⁾ 十九世紀から二十世紀初めまでのいくつかの歌集に収められているが、現在の英米でこの楽譜が出版されているか否かは不明である。日本版は音楽教科書から採用さ

(11) 「旅泊」その他—外国曲からの唱歌四曲

れたと思われる。

- (1) 拙稿「唱歌集の中の外国曲—『小学唱歌集』を中心として(一、二)」(『言語文化』第四一巻、一橋大学語学研究室、二〇〇四、三一—七頁、第四二巻、二〇〇五、印刷中)、『小学唱歌集』のスコットランド歌謡(CALFEDONIA, No.33、日本カレドニア学会、二〇〇五、印刷中)。
- (2) 大和田建樹・奥好義編『明治唱歌第三集』(中央堂、一八八九)三〇—三一頁「高知市民図書館近森文庫(<http://school.nijiac.jp/kindai/CKMR.html>)」、大和田建樹・奥好義編『明治唱歌抜萃小学唱歌』(中央堂、一八九五)四二頁「国立国会図書館近代デジタルライブラリー(<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>)」に再録。
- (3) 『高等小学唱歌(一—下)』(一九〇六)に収録されたもので、一般には「たすけぶね」であるが井上武士は「すくいぶね」と読んでいたという(金田一春彦・安西愛子編『日本の唱歌(一七)』講談社文庫、一九七七、八二頁)。
- (4) 堀内敏三・井上武士編『日本唱歌集』(岩波文庫、一九五八)三六頁。『学習指導要領・音楽編(試案)』(一九四七)における「とうだいもり」も「イギリス曲」となれていた。
- (5) 『名作唱歌選集』(音楽之友社、一九五〇)六二頁

(「助船」)、『日本の詩歌 別巻(日本唱歌集)』(中央公論社、一九六八)五九頁(「旅泊」)、井上武士編『日本唱歌全集』(音楽之友社、一九七二)四三頁(「とうだいもり」)、藍川由美『これでいいのか、にっぽんのうた』(文春新書、一九九八)二四頁。

(6) 手代木俊一『讚美歌・聖歌と日本の近代』(音楽之友社、一九九九)一〇四頁。

(7) J.P. McCaskey, ed., *Franklin Square Song Collection*, No.1 (New York: Harper & Brothers, 1881), p.9.

(8) この原曲については、拙稿「ナンシー・マーンセンの関連曲」(『一橋論叢』第一三三巻第三号、二〇〇四、一四〇頁)参照。

(9) 参ぎまでに歌詞の冒頭と収録文献を挙げておく(題名はすべて「The Golden Rule」を略す)。(a) "Be to others kind and true" (Luther Whiting Mason, *Primary and First Reader*, [1870], 1885, p.28; Mason, *National Music Charts*, 1st series, 1872, p.28); (b) "To do to others as I would" (J.P. McCaskey, *Franklin Square Song Collection*, No.7, 1890, p.87; McCaskey, *Favourite Songs and Hymns for School and Home*, 1899, p.187); (c) "To do to others as I would" (J. W. Greene, *School Melodies*, Boston: Morris Cotton, 1852, p.24; 前者と歌詞は同じだ

- が曲は違へ) [Nietz Old Textbook Collection, <http://digital.library.pitt.edu/nietz/>]. なお、唱歌ではならぬ Bodleian Library Broadside Ballads (<http://www.bodleian.ox.ac.uk/ballads/ballads.htm>) に一七九五年にロンズンと出版された“The Golden Rule” (“My son, behold what God's commands impart...”) のふたつのバージョンがある。
- (9) Nicholas Temperley, ed, *The Hymn Tune Index*, 4 vols. (Oxford: Clarendon Press, 1998); D. DeWitt Wasson, ed, *Hymntune Index and Related Hymn Materials*, 3 vols. (Lanham, Maryland & London: Scarecrow Press, 1998).
- (11) これはさまでさ比較的知られてゐる歌で、『フランクリン・スタウエア・ソング・コレクション』第一集「さまざまな歌集」に、また酒井勝重編『英語唱歌集 第七編』(上田編)一九〇三―二一―(三四)に「The Rose of Allendale」が収録されてゐる。
- (12) ニ宅中明氏は「ある勲達に人生」(『日本カレドニア学会 Newsletter』第一〇号、二〇〇四年五月)とどうも『セイの中』これをスロットマシンで民謡と思ひ込んでゐたか、この歌の原詞を探すことに「八方手を尽くしたが結局フチがあかなかつた」(二頁)と述べてゐる。
- (13) 『日本唱歌集』三七頁。井上編『日本唱歌全集』も「作詞・作曲者不詳」(四二頁)。
- (14) 『日本の唱歌(上)』八六頁。
- (15) 一八四七年の Birth and Hall 社版を和訳し American Memory (<http://leweb2loc.gov/ammem/index.html>) にて「The Lester S. Levy Collection of Sheet Music」(<http://levysheetmusic.jhu.edu/index.html>) にて「Minstrel Songs. Old and New」(Boston: Oliver Ditson, 1882), pp.67-69.
- (16) *Minstrel Songs. Old and New* (Boston: Oliver Ditson, 1882), pp.67-69.
- (17) Joe Mitchell Chapple, *Heart Songs* (1909; rpt. Baltimore: Clearfield, 1997), pp.450-51.
- (18) それぞれ一歌ずつ Bodleian Library Broadside Ballads に収録されてゐる。
- (19) Rosa Lee-Ethiopian melodies, No.7 (Sydney: H. Marsh & Co. [1852 to 1854]) [National Library of Australia, <http://www.nla.gov.au/>].
- (20) 『唱歌索引(明治編) 一曲名・歌詞索引』(国立音楽大学音楽研究所 一九八四)。
- (21) *The Southern Harmony and Musical Companion* ([1835], 1854; rpt. University Press of Kentucky, 1987), no.313.

(15) 「旅泊」その他—外国曲からの唱歌四曲

Co., [ca. 1892]) [National Library of Australia]. 44
“Flora’s Wreath” (Composed by J. Mazzinghi) (New
York: Wm. Dubois, n.d.) と題して、同の歌詞と曲が
あつた。歌は、作詞者の。

(14) たふては Julius Eichberg, *New High School Music
Reader* (Boston: Ginn and Co., 1894), pp.128-35.

(一橋大学経済学研究所教授)